「環境問題、経済、技術」-1

材料工学環境論

2012/05/23

○　環境問題は、技術の進歩に伴って発生するが、「技術」に問題の本質があるのではなく、「勘定」の問題や「感情」の問題であり、技術的解決に向けて利害を調整すべき「政治」の問題である。

1. 環境問題の分類

環境問題は４種類に分類できる

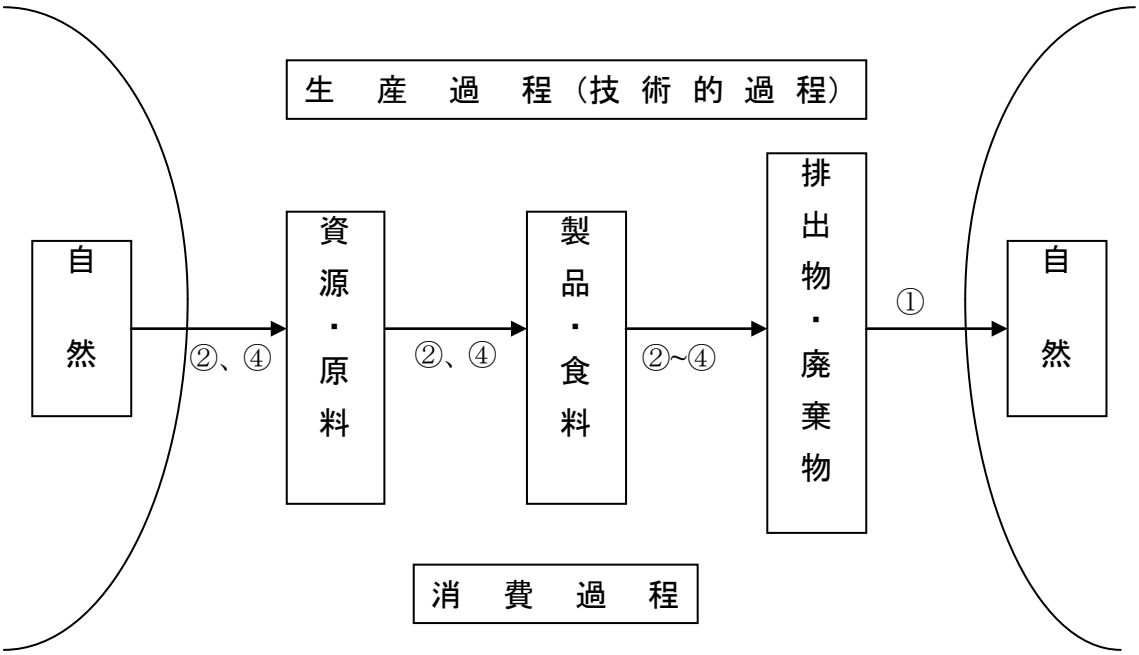
①廃棄物（ごみ）問題（都市ごみ等の廃物、廃水、排ガス・・・地球温暖化も）

②副次的汚染（農薬、環境ホルモン・・・）

③意図的汚染（化学兵器、地雷、情報環境汚染・・・パンデミック騒動も）

④事故による汚染（原油流出事故、フクシマ原発事故も）

2. 経済、技術と環境問題の係わり



図表　経済活動と環境問題、技術の係わり

３．環境問題の展開プロセス

＜第一段階＞

　環境問題は、人間の生活環境を汚染する物質の排出量と排出物を受容する環境容量の関係が、

「排出量＞環境容量」

になることを条件にしている。

＜第二段階＞

　それが、環境問題として認識されるようになるのは、

「環境汚染による経済的不便益＞環境汚染プロセスの経済的便益」

となる人々や地域が生じることによる。

＜第三段階＞

　しかし、それがさらに環境「問題」へと発展するには、「排出量＞環境容量」の状態を、

「環境容量＞排出量」

の関係に転換するための技術的な対策費用について、誰がどう負担し、どう片付けるかという利害対立が生まれ、その利害調整がうまくいかないで、「排出量＞環境容量」が構造的に持続してしまうことが条件になる。

＜第四段階＞

　環境問題が解決に向かうのは、

「解決策としての技術の普及に要する経済的負担＞解決後の経済的便益」

が理解され、利害の調整が行われて、適正な技術の選択がなされた後のことになる。

３．環境問題の「法則」

1）技術の進歩に伴って、新しい環境問題が必ず発生する。

2）しかし、環境問題は必ず技術的に解決される。

3）　環境問題は、不等号の向きが変わっていくことで発生し、不等号の向きを変えていくことで終息する。

以上